(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3871799号
(P3871799)
(45)発行日　平成19年1月24日(2007.1.24)　(24)登録日　平成18年10月27日(2006.10.27)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 315A
A63F 7/02 304B
A63F 7/02 320

請求項の数 3　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願平10-69314
(22)出願日　平成10年3月3日(1998.3.3)
(65)公開番号　特開平11-244466
(43)公開日　平成11年9月14日(1999.9.14)
審査請求日　平成14年8月2日(2002.8.2)

(73)特許権者　000161806
京楽産業．株式会社
愛知県名古屋市中区錦三丁目２４番４号
(74)代理人　100112531
弁理士　伊藤　浩二
(74)代理人　100106895
弁理士　橋本　洋一
(72)発明者　榎本　宏
愛知県名古屋市中川区尾頭橋三丁目２０番８号　京楽産業株式会社内

審査官　小林　俊久

最終頁に続く

(54)【発明の名称】パチンコ遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

遊技盤に設けられた始動入賞口に打球が入球すると図柄変動表示器の各図柄列に数字，記号等の図柄が変動表示され、その変動表示が時間差をもって停止し全部の図柄列が同じ図柄で停止した場合に大当たりとなり大入賞口が継続的に開成状態となるパチンコ遊技機において、各図柄列の内のいくつかの図柄列が同じ図柄で停止した時点でリーチ状態が発生し、そのリーチ状態で挑戦型リーチ表示パターンが表示されたときに作動する挑戦意思確認手段を設け、該挑戦意思確認手段により遊技者の挑戦意思が確認された場合に該図柄変動表示器の表示態様が平常確率パターンから高確率パターンまたは低確率パターンに移行し、高確率パターンに移行した場合は高確率で大当たりとなり、低確率パターンに移行した場合は低確率で大当たりとなるように夫々確率を設定し、しかも平常確率パターンから高確率パターンに移行する確率は平常確率パターンから低確率パターンに移行する確率よりも小さくなるように設定し、平常確率パターンのままで大当たりが発生する確率と高確率パターンまたは低確率パターンに移行して大当たりが発生する確率とは同一確率となるようにしたことを特徴とするパチンコ遊技機。

【請求項２】

挑戦意思確認手段は、遊技者が操作し得るように前面に設けられた押しボタンスイッチである請求項１に記載のパチンコ遊技機。

【請求項３】

挑戦意思確認手段は、遊技盤の特定位置に設けられた打球検出センサである請求項１に

記載のパチンコ遊技機。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、図柄変動表示器の表示が所定の図柄に揃うことにより大当たりが発生し特別遊技状態となって大入賞口が継続的に開かれ打球が非常に入賞し易くなるように構成されたパチンコ遊技機に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
一般に「フィーバー機」と称される第１種パチンコ遊技機は、遊技盤にカラー液晶ディスプレイ，ＣＲＴ等の図柄変動表示器が設けられ、始動入賞口に打球が入ると、１～９の数字または☆●◆◎★▽等の記号（以下、図柄という）が該図柄変動表示器に夫々上から下に流れる如くに３列で変動表示され、その表示の変動は数秒後に左列，右列，中列の順、または左列，中列，右列の順のように、時間差をもって停止し、該各図柄列が所定の確率で偶然性をもって例えば「７７７」，「☆☆☆」のように３つとも同じ図柄で停止した場合に大当たり（特別遊技状態）となり、大入賞口の開閉扉が電動開閉装置の作動により開成状態となるようにしたもので、その開成状態の大入賞口に打球が所定個数（通常は１０個）入球するか、または開成状態で所定制限時間（通常は３０秒）が経過すると、いわゆる第１ラウンドが終わって該大入賞口は一旦は閉じるが、その第１ラウンド中に大入賞口内に設けられている継続入賞口（Ｖゾーンと称される）に打球が入球していた場合には第２ラウンドが始まりすぐにまた該大入賞口が開かれ、開成状態となった大入賞口にまた打球が所定個数（通常は１０個）入球するか、または開成状態で所定制限時間（通常は３０秒）が経過すると、第２ラウンドが終わって該大入賞口はまた閉じるが、その第２ラウンド中に大入賞口内に設けられている継続入賞口（Ｖゾーンと称される）に打球が入球していた場合には第３ラウンドが始まりすぐにまた該大入賞口が開かれ、こうして各ラウンド中に継続入賞口に打球が入賞したことを条件として最終ラウンド（例えば第１６ラウンド）になるまで該大入賞口が継続的に開かれるようにしている。このように特別遊技状態の期間中に大入賞口の開閉扉が所定ラウンド数を限度として継続的に開かれ打球が極めて入り易い状況が続くので多数の景品球を獲得できて遊技者に多くの利益がもたらされるものである。
【０００３】
また、上記図柄変動表示器の変動表示は、３つの図柄列のうち最初に停止した２つの図柄列の図柄が同じであって最後の図柄列がまだ変動中である状態が俗に「リーチ状態」と称され、最後の図柄列が一旦は違う図柄に停止しても再び変動し、３列とも同じ図柄となって大当たりとなったり、或いは残念ながら最後の図柄列は違う図柄に停止して大当たりを逃すこととなったりする。こうして遊技者に大当たりへの期待感を持続させるような表示、即ち「リーチ表示」が従来からなされている。
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、従来のリーチ表示は、予め記憶された数種類の動画表示パターンを繰り返し使用して図柄変動表示器に表示させるにすぎないものであったので、常に同種類の台で遊んでいる遊技者にとっては、その表示パターンが何度も見たことのあるものとなるとそのリーチ表示が開始されるとすぐに結果が分かってしまうようになり、遊技者に期待感を持続させることが困難となる欠点があった。このためこの種のパチンコ遊技機に飽きが来るようなことがあった。
【０００５】
【課題を解決するための手段】
本発明は上記課題を解決しようとするもので、遊技盤に設けられた始動入賞口に打球が入球すると図柄変動表示器の各図柄列に数字，記号等の図柄が変動表示され、その変動表示が時間差をもって停止し全部の図柄列が同じ図柄で停止した場合に大当たりとなり大入

賞口が継続的に開成状態となるパチンコ遊技機において、各図柄列の内のいくつかの図柄列が同じ図柄で停止した時点でリーチ状態が発生し、そのリーチ状態で挑戦型リーチ表示パターンが表示されたときに作動する挑戦意思確認手段を設け、該挑戦意思確認手段により遊技者の挑戦意思が確認された場合に該図柄変動表示器の表示態様が平常確率パターンから高確率パターンまたは低確率パターンに移行し、高確率パターンに移行した場合は高確率で大当たりとなり、低確率パターンに移行した場合は低確率で大当たりとなるように夫々確率を設定し、しかも平常確率パターンから高確率パターンに移行する確率は平常確率パターンから低確率パターンに移行する確率よりも小さくなるように設定し、平常確率パターンのままで大当たりが発生する確率と高確率パターンまたは低確率パターンに移行して大当たりが発生する確率とは同一確率となるようにしたことを特徴とする。

【０００６】

また本発明は、上記パチンコ遊技機における挑戦意思確認手段が遊技者が操作し得るように前面に設けられた押しボタンスイッチであることを特徴とする。

【０００７】

また本発明は、上記パチンコ遊技機における挑戦意思確認手段が遊技盤の特定位置に設けられた打球検出センサであることを特徴とする。

【０００８】

【発明の実施の形態】

次に図面に従い本発明の実施の形態を説明する。図１にこのパチンコ遊技機の正面を示し、図中、１は景品球受用の上皿、２は下皿、３は打球発射ハンドル、５は遊技盤、６は前面枠、７は該遊技盤５上に設けられた液晶ディスプレイからなる図柄変動表示器、８は普通入賞口、９は始動入賞口で、該始動入賞口内には始動入賞口スイッチ１０が設けられている。なお１１は遊技者が操作し得るように前面に設けられた押しボタンスイッチで、該スイッチ１１は後述するようにスーパーリーチへの挑戦意思確認手段となる。

【０００９】

１２は取付基板１３の中央に開設された長方形状の大入賞口で、該大入賞口１２には図２，図３にも示したように開閉扉１４が電動開閉装置１６（ソレノイド）の作動により前方に開閉可能なるように枢支されている。なお該大入賞口１２内の中央部には継続入賞口１５が形成され、該継続入賞口に入賞した遊技球を検出する継続入賞口スイッチ１７、および該大入賞口１２に入賞した遊技球を検出する入賞球計数スイッチ１８がそれぞれ設けられている。

【００１０】

また、このパチンコ遊技機の裏側には図４にブロック図にて示した遊技制御回路基板２０が取付けられ、該遊技制御回路基板２０には入出力装置を介して前記始動入賞口スイッチ１０，スイッチ１１，継続入賞口スイッチ１７，入賞球計数スイッチ１８，図柄変動表示器７，電動開閉装置１６等が接続されている。

【００１１】

そして該遊技制御回路基板２０は、これらのスイッチ１０，１１，１７，１８の入力に従い図柄変動表示器７の表示を変動させ、大当たりが発生した場合は電動開閉装置１６を駆動して大入賞口１２を開閉させる。

【００１２】

次にこのパチンコ遊技機の作動を図５のフローチャートに従い説明する。このパチンコ遊技機では、ステップａにて始動入賞口スイッチ１０からの入賞信号を捕らえると、ステップｂにて図柄変動表示器７に１～９の数字および☆●◆◎★▽等の図柄が３列にて夫々上から下に流れる如くに変動表示される。

【００１３】

そして、ステップｃにてリーチ状態発生かどうかが判別される。即ち、各図柄列は数秒後に左列，中列，右列の順に停止するが、左列と中列が停止した時点でその停止図柄が同一かどうかが判別され同一でない場合はステップｌに移行する。また、左列の停止図柄と中列の停止図柄が同一であった場合はさらにステップｄにてそのリーチ状態が図６の（イ）

に示したような挑戦型リーチ表示パターンがどうかが判別され、挑戦型リーチ表示パターンでない場合はステップｌに移行する。この挑戦型リーチ表示パターンは、図柄変動表示器７の表示が図６の（イ）に例示したように左列の停止図柄と中列の停止図柄が同一であり、かつその一部に「スーパーリーチに挑戦しますか？」のような遊技者に対する挑戦意思確認表示（ステップｅ）がなされる。

【００１４】

そこで、ステップｆ，ｇに示すように、遊技者が所定時間内に前記押しボタンスイッチ１１を押さなければステップｌに移行し、例えば１／１２の確率で右列がすでに停止している図柄と同じ図柄で停止し大当たりとなる。また遊技者が所定時間内に押しボタンスイッチ１１を押した場合は、表示パターン選択手段（ステップｈ）が作動し、例えば１／６の確率で高確率パターンとなり、５／６の確率で低確率パターンとなる。低確率パターンとなった場合は例えば図６（ロ）に示したように円内に図柄が表示されたような表示態様となりステップｋにて確率設定が行われその数秒後に１／３０の確率で右列がすでに停止している図柄と同じ図柄で停止する。（ステップｌ）。また高確率パターンとなった場合は例えば図６（ハ）に示したように星形内に図柄が表示されたような表示態様（スーパーリーチと称する）となりステップｊにて確率設定が行われその数秒後に１／３の高確率で右列がすでに停止している図柄と同じ図柄で停止するようになる。

【００１５】

そして、ステップｍにて３つの停止図柄が同一であるかどうかが判別され、同一でない場合はステップａに戻る。また同一であった場合は大当たりとなり、一連の大当たり処理が行われる。即ち、大入賞口１２の開閉扉１４を電動開閉装置１６の作動により開成状態とし、開成状態の大入賞口１２に打球が１０個入球するか、または開成状態で所定制限時間３０秒が経過すると、いわゆる第１ラウンドが終わって該大入賞口は一旦は閉じるが、その第１ラウンド中に継続入賞口１５に打球が入球していた場合には第２ラウンドが始まりすぐにまた該大入賞口が開かれる。そして開成状態となった大入賞口にまた打球が１０個入球するか、または開成状態で３０秒が経過すると、第２ラウンドが終わって該大入賞口はまた閉じるが、その第２ラウンド中に継続入賞口２２に打球が入球していた場合には第３ラウンドが始まりすぐにまた該大入賞口が開かれる。こうして各ラウンド中に継続入賞口に打球が入賞したことを条件として１６ラウンドになるまで該大入賞口が継続的に開かれた後、ステップｎからステップａに戻り通常の遊技状態となる。

【００１６】

このように図柄変動表示器７に図６（イ）に示したような挑戦型リーチ表示パターンが遊技者が表示されたとき、遊技者は自分の意思で高確率（スーパーリーチ）に挑戦するかどうかを押しボタンスイッチ１１を押すか押さないかによって自由に決定することができる。そして押した場合には運良く高確率になることもあれば、運悪く低確率になってしまう場合もある。また押しボタンスイッチ１１を押さなければ、右列の図柄が同一図柄で停止する確率は変動することなく例えば１／１２のままとなる。

【００１７】

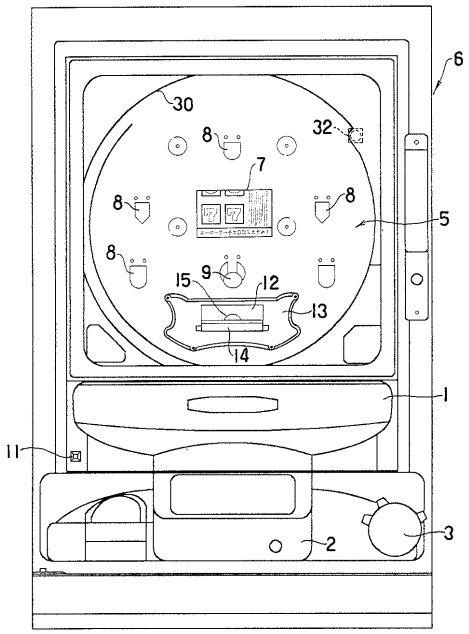
従って遊技者は図柄変動表示器に挑戦型リーチ表示パターンが表示された場合、自らの意思で積極的に大当たりを獲得していく醍醐味を味わうことができるとともに、その過程が多様化するので、飽きることなくパチンコ遊技を続けられる。

【００１８】

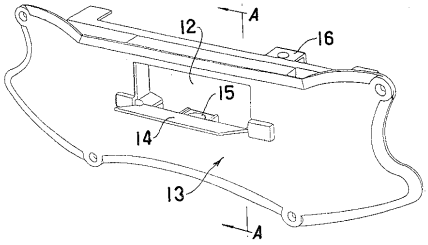
なお、以上の実施形態では遊技者の挑戦意思確認手段として押しボタンスイッチ１１を設けたが、遊技者の挑戦意思確認手段はこれに限らず、例えば遊技盤面上の遊技球の飛翔位置が検知されるようにしてもよい。図７，図８はその例を示したもので、この場合遊技盤面に設けられた玉発射レール３０の終端部に遊技球３１が当たることによって動く可動弾性体３２を設け、該可動弾性体が動くとスイッチ１１が作動しスーパーリーチへの遊技者の挑戦意思が確認できるようにしたものである。また、図９は同様の目的で玉発射レール３０の終端部に軸３４により可動片３３を枢支し遊技球３１が当たった場合スイッチ１１が作動するようにしたものである。

【００１９】
また、図６は図柄変動表示器７の表示の一例を示したものであって、本発明ではこの表示に限られるものでないことは勿論である。
【００２０】
【発明の効果】
　このように本発明のパチンコ遊技機は、遊技盤に設けられた始動入賞口に打球が入球すると図柄変動表示器の各図柄列に数字，記号等の図柄が変動表示され、その変動表示が時間差をもって停止し全部の図柄列が同じ図柄で停止した場合に大当たりとなり大入賞口が継続的に開成状態となるパチンコ遊技機において、各図柄列の内のいくつかの図柄列が同じ図柄で停止した時点でリーチ状態が発生し、そのリーチ状態で挑戦型リーチ表示パターンが表示されたときに作動する挑戦意思確認手段を設け、該挑戦意思確認手段により遊技者の挑戦意思が確認された場合に該図柄変動表示器の表示態様が平常確率パターンから高確率パターンまたは低確率パターンに移行し、高確率パターンに移行した場合は高確率で大当たりとなり、低確率パターンに移行した場合は低確率で大当たりとなるように夫々確率を設定し、しかも平常確率パターンから高確率パターンに移行する確率は平常確率パターンから低確率パターンに移行する確率よりも小さくなるように設定し、平常確率パターンのままで大当たりが発生する確率と高確率パターンまたは低確率パターンに移行して大当たりが発生する確率とは同一確率となるようにしたので、図柄変動表示器に挑戦型リーチ表示パターンが表示された場合、遊技者に自らの意志で積極的に大当たりを獲得していくが如くの醍醐味を味わせることができるとともに、大当たりを発生させるに至る過程が多様化するので、遊技者を常に飽きさせることなく、パチンコ遊技の興趣を増大させる効果がある。
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明に係るパチンコ遊技機の正面図。
【図２】本発明に係るパチンコ遊技機の大入賞口の斜視図。
【図３】図２に示した大入賞口のＡ－Ａ線断面図。
【図４】本発明に係るパチンコ遊技機のブロック図。
【図５】本発明に係るパチンコ遊技機のフローチャート。
【図６】本発明に係るパチンコ遊技機の図柄変動表示器の表示例図。
【図７】本発明に係るパチンコ遊技機の挑戦意思確認手段の斜視図。
【図８】図７のＢ－Ｂ線断面図。
【図９】本発明に係るパチンコ遊技機の挑戦意思確認手段の正面図。
【符号の説明】
５　　遊技盤
７　　図柄変動表示器
９　　始動入賞口
１２　　大入賞口
１１　　押しボタンスイッチ
１４　　開閉扉
１６　　電動開閉装置
２０　　遊技制御回路基板

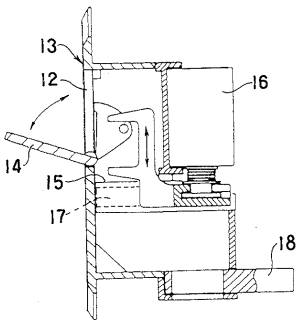
【図１】


6
30
32
8
7
8
8
5
8
15
9
12
13
14
1
11
2
3

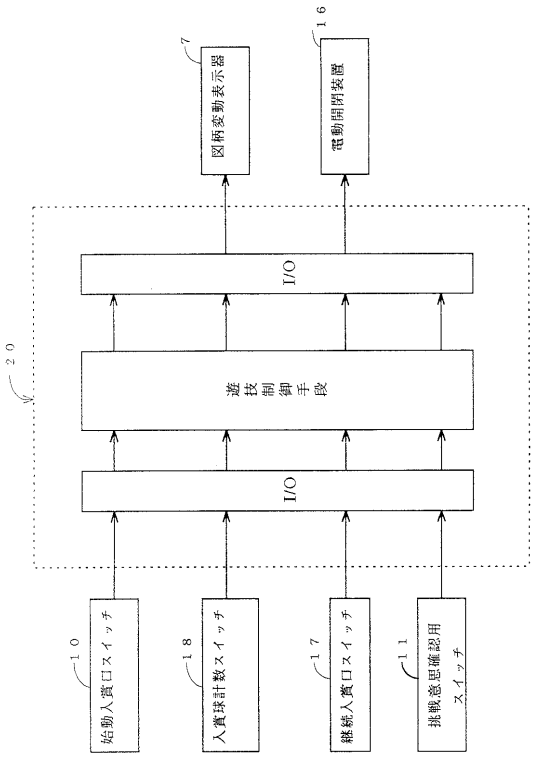
【図２】


A
12
16
15
14
13
A

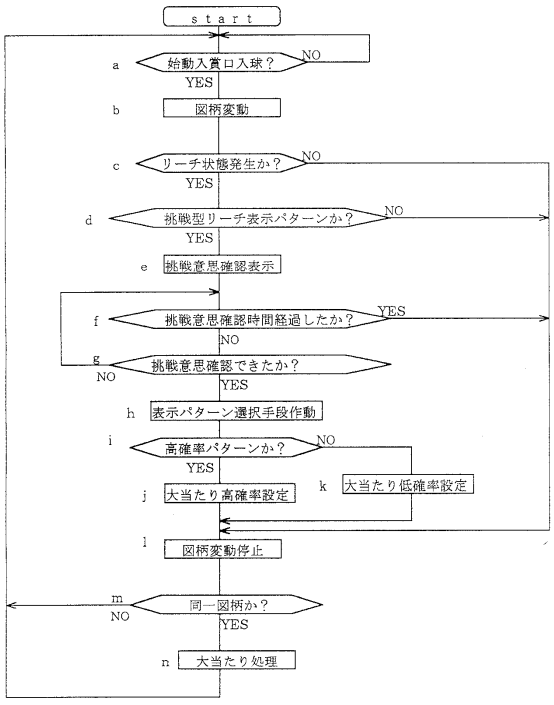
【図３】


13
12
16
14
15
17
18

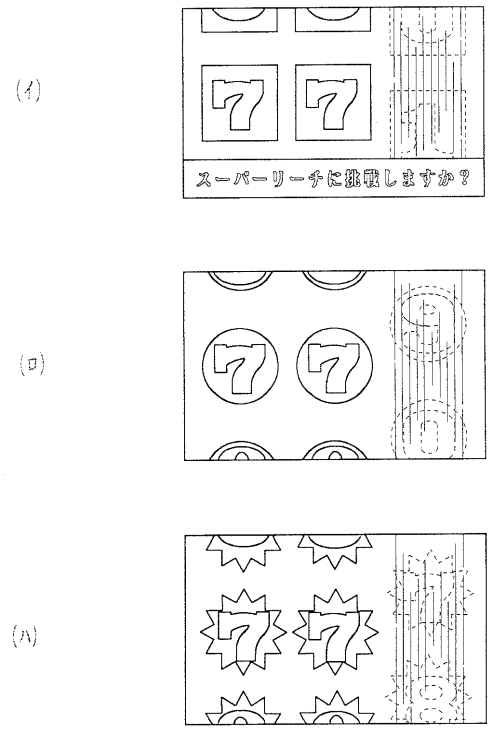
【図４】


16
7
図柄変動表示器
電動開閉装置
I/O
20
遊技制御手段
I/O
10
始動入賞口スイッチ
18
入賞球計数スイッチ
17
継続入賞口スイッチ
11
挑戦意思確認用スイッチ

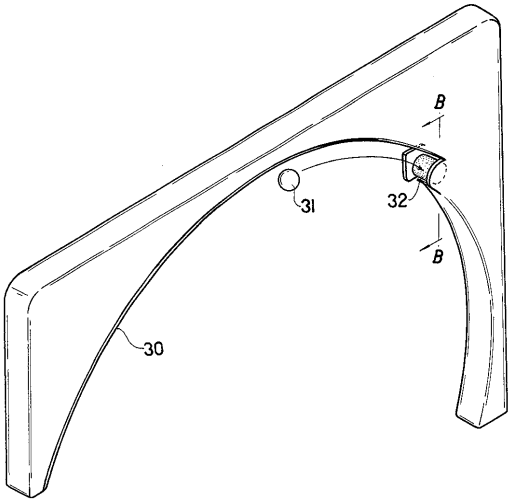
【図５】


start
a
始動入賞口入球？
NO
YES
b
図柄変動
c
リーチ状態発生か？
NO
YES
d
挑戦型リーチ表示パターンか？
NO
YES
e
挑戦意思確認表示
f
挑戦意思確認時間経過したか？
YES
NO
g
挑戦意思確認できたか？
NO
YES
h
表示パターン選択手段作動
i
高確率パターンか？
NO
YES
j
大当たり高確率設定
k
大当たり低確率設定
l
図柄変動停止
m
同一図柄か？
NO
YES
n
大当たり処理

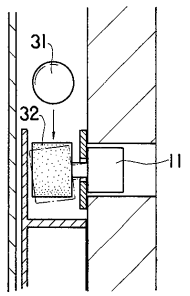
【図６】



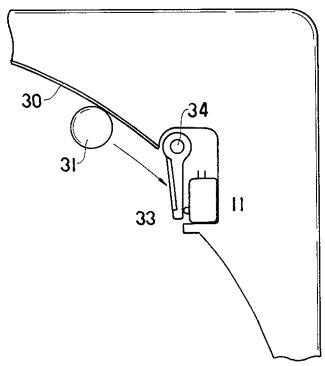
【図７】



【図８】



【図９】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０２－２３９９８０（ＪＰ，Ａ）
特開平０７－２８９７０２（ＪＰ，Ａ）
特開２００２－１４３３９６（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－３０９００２（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－２７１５６７（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－０９９４９３（ＪＰ，Ａ）
特開平０６－１７００４９（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－２６２３４７（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－１４１１７０（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－０３８２８６（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－２３９１１１（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A63F 7/02